

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	KCS北九州情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	大学併修科	夜・通信	320 時間	320 時間	
	システムエンジニア科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	ゲームクリエイター科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	ITソリューション科	夜・通信	160 時間	160 時間	
	ゲームプログラマ科	夜・通信	160 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kcsk.ac.jp/johokoukai

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	KCS北九州情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付の役員名簿を閲覧させる。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	R4.6.27 ~ R6.6.26	経理・財務
非常勤	株式会社役員	R4.6.27 ~ R6.6.26	法人経営
(備考) 外部理事 総数 3名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	KCS北九州情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。</p> <p>それらの科目シラバスは、各学科の講師が次年度の教育実施計画書を作成する3月末までに作成し、4月にホームページ上に公表している。また学生の要求に応じて、いつでも閲覧できるよう職員室に設置する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.kcsk.ac.jp/johokoukai
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては修学の手引きに明記することで全学生へ周知している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学ではG P Aを導入していないものの、5段階の成績評価（秀・優・良・可・不可）を設けて評価を行っている。これらについては修学の手引きに明記することで全学生へ周知している。また、成績の分布状況については、半期毎に通知する成績表に対象学科における「学年順位」を記載しており、学生は自身の成績が下位4分の1に入っていないかを把握できるようにしている。学年順位は個人ごとにすべての科目の試験点数（評価点）の平均を計算し順位付けを行い客観的な指標としている。なお、修学の手引きは、要求に応じて、いつでも閲覧できるように職員室に設置するとともに、学生には年度初めに配布している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.kcsk.ac.jp/johokoukai</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育理念及び目標とする人材像に基づき、実践的な IT 人材として必要な以下の能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の科目を履修した学生に対して卒業を認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム開発の知識と技術を修得し問題解決に活用できる ・コミュニケーション力を持ち、他者と協働できる ・倫理観を持って行動できる <p><実施に係る取組></p> <p>「修業年限以上在籍」については主に出席状況、「所定の科目を履修」については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠 及び 成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ、問題がある場合は適宜フォローを行いながら進級・卒業指導を行い、年度末の「進級・卒業判定会議」を経て、校長が進級・卒業を認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.kcsk.ac.jp/johokoukai</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	KCS北九州情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には学校備付けの「貸借対照表」を閲覧させる。
収支計算書又は損益計算書	希望者には学校備付けの「収支決算書」を閲覧させる。
財産目録	希望者には学校備付けの「財産目録」を閲覧させる。
事業報告書	希望者には学校備付けの「事業報告書」を閲覧させる。
監事による監査報告（書）	希望者には学校備付けの「監事による監査報告書」を閲覧させる。

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

(1) 大学併修科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	大学併修科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,430 単位時間	1854 単位時間	318 単位時間	1258 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3,430 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		137人	0人	5人	0人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 科目試験の評価基準は次のとおりである。	
90点以上	秀
80点以上 90点未満	優

70 点以上 80 点未満	良
60 点以上 70 点未満	可
60 点未満	不可
卒業・進級の認定基準	
(概要) 進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。	
学修支援等	
(概要) 中途退学防止の取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34 人 (100%)	0 人 (0%)	30 人 (88.2%)	4 人 (11.8%)
(主な就職、業界等) IT・ソフトウェア・情報処理			
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ、保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
基本情報技術者試験	62 人	14 人	
応用情報技術者試験	66 人	8 人	
情報処理安全確保支援士試験	7 人	0 人	
IT パスポート試験	39 人	4 人	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
151 人	9 人	6%
(中途退学の主な理由) 就職・起業、不適応・意欲低下、心神耗弱・疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメ		

ント相談窓口、日本学生支援機構奨学金等

(2) システムエンジニア科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	システムエンジニア科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,210 単位時間	1,692 単位時間	280 単位時間	1,238 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3,210 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
125人		188人	0人	5人	0人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)

毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。

成績評価の基準・方法

(概要)

学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。

科目試験の評価基準は次のとおりである。

90点以上	秀
80点以上 90点未満	優
70点以上 80点未満	良
60点以上 70点未満	可
60点未満	不可

卒業・進級の認定基準

(概要)

進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。

学修支援等

(概要)

中途退学防止の取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

--

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
52人 (100%)	0人 (0%)	48人 (92.3%)	4人 (7.7%)
(主な就職、業界等) IT・ソフトウェア・情報処理			
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあつた万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ、保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名		受験者数	合格者数
基本情報技術者試験		85人	24人
応用情報技術者試験		50人	5人
情報処理安全確保支援士試験		3人	1人
ITパスポート試験		55人	6人
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
187人	7人	3.7%
(中途退学の主な理由) 不適応・意欲低下、心神耗弱・疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口、日本学生支援機構奨学金等		

(3) ゲームクリエイター科

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ゲームクリエイター科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,210 単位時間	1,896 単位時間	450 単位時間	864 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3,210 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		72人	0人	3人	0人	3人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

<p>(概要)</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p>										
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>科目試験の評価基準は次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>90 点以上</td> <td>秀</td> </tr> <tr> <td>80 点以上 90 点未満</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>70 点以上 80 点未満</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>60 点以上 70 点未満</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>60 点未満</td> <td>不可</td> </tr> </table>	90 点以上	秀	80 点以上 90 点未満	優	70 点以上 80 点未満	良	60 点以上 70 点未満	可	60 点未満	不可
90 点以上	秀									
80 点以上 90 点未満	優									
70 点以上 80 点未満	良									
60 点以上 70 点未満	可									
60 点未満	不可									
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>										
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>中途退学防止の取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>										

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (91.7%)	2 人 (8.3%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT・ソフトウェア・情報処理</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ、保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施している。</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等))		
資格・検定名	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	26人	7人
応用情報技術者試験	22人	2人
情報処理安全確保支援士試験	1人	1人
ITパスポート試験	28人	2人
(備考) (任意記載事項)		

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72人	2人	2.8%
(中途退学の主な理由) 不適応・意欲低下、心神耗弱・疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口、日本学生支援機構奨学金等		

(4) ITソリューション科

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ITソリューション科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,130 単位時間	1,160 単位時間	124 単位時間	846 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		2,130 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	50人	0人	4人	0人	4人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 科目試験の評価基準は次のとおりである。
90点以上 秀
80点以上 90点未満 優

70 点以上 80 点未満	良
60 点以上 70 点未満	可
60 点未満	不可
卒業・進級の認定基準	
(概要) 進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。	
学修支援等	
(概要) 中途退学防止の取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30 人 (100%)	0 人 (0%)	27 人 (90%)	3 人 (10%)
(主な就職、業界等) IT・ソフトウェア・情報処理・営業・販売			
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ、保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
基本情報技術者試験	11 人	5 人	
応用情報技術者試験	7 人	1 人	
IT パスポート試験	57 人	5 人	
ビジネス能力検定 3 級	17 人	13 人	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	5 人	8.1%
(中途退学の主な理由) 不適応・意欲低下、心神耗弱・疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメ		

ント相談窓口、日本学生支援機構奨学金等

(5) ゲームプログラマ科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲームプログラマ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,130 単位時間	1,368 単位時間	245 単位時間	517 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2,130 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		17人	0人	3人	0人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。

科目試験の評価基準は次のとおりである。

90点以上	秀
80点以上 90点未満	優
70点以上 80点未満	良
60点以上 70点未満	可
60点未満	不可

卒業・進級の認定基準

（概要）

進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。

学修支援等

（概要）

中途退学防止の取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

--

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	9人 (90%)	1人 (10%)
(主な就職、業界等) IT・ソフトウェア・情報処理			
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあつた万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ、保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名		受験者数	合格者数
基本情報技術者試験		13人	1人
応用情報技術者試験		2人	0人
情報処理安全確保支援士試験		0人	0人
ITパスポート試験		11人	1人
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	6人	22.2%
(中途退学の主な理由) 不適応・意欲低下、心神耗弱・疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口、日本学生支援機構奨学金等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
大学併修科	100,000円	364,000円	420,000円	
システム エンジニア科	150,000円	558,000円	458,000円	
ゲーム クリエイタ科	150,000円	558,000円	458,000円	
ITソリューション科	150,000円	558,000円	458,000円	
ゲーム プログラマ科	150,000円	558,000円	458,000円	令和5年度より科名変更 (旧科名：ゲーム・CGデザイン科)
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.keck.ac.jp/hyouka		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 企業等委員、卒業生委員および有識者委員から構成される委員会が、学校の自己評価結果をもとに学校運営を評価する。主な評価項目は、教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献である。その評価結果を教育活動その他の学校運営改善等に生かし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。 学校関係者評価委員の定数は5名である。 評価結果については、校長が責任者として毎年3月までに改善策を反映する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
業界団体役員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	有識者 (業界団体役員)
株式会社役員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	企業等
株式会社役員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	企業等
株式会社従業員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	卒業生
高等学校職員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	高校関係者
学校関係者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kcsk.ac.jp/johokoukai
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kcsk.ac.jp/johokoukai
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H140310000141
学校名	K C S 北九州情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		130人	118人	-
内 訳	第Ⅰ区分	79人	82人	
	第Ⅱ区分	38人	-	
	第Ⅲ区分	13人	-	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				131人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	-	-	0人
計	-	-	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	-	-	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-	-	-
計	-	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。